

第二の飛躍期迎え JaLSA 新綱領制定 会員大幅増で創立 10 周年を盛大に祝う

◆平成 26 年度定例総会を開催、会員 110 校に大幅拡大

さる 6 月 25 日午前、東京・御茶ノ水の中央大学駿河台記念館で、一般社団法人・全国日本語学校連合会（J a L S A）の平成 26 年度定例総会が開かれ、平成 26 年度活動計画、及び運営方針案を圧倒的多数で承認した。また、J a L S A は、語学留学生に対する需要増を予測して、日本語学校の質とモラルの向上を一層図り、国際貢献と国際親善の重要性を自覚し、以て業界の発展を実現すべく、従来 of 倫理規定を見直し、新たに J a L S A 綱領を掲げた。この一年間、会員は大幅に増えて 110 校に達した。午後には大学及び専門学校との第 16 回進学フェアと、夕方からは J a L S A 創立 10 周年を祝う祝賀会が相次いで盛大に催され、連合会の平成 16（2004）年創立以来の着実な発展を印象付けた。

定例総会は、沖縄の日本文化経済学院の仲田俊一理事長を議長に選出して行われ、JaLSA の荒木幹光理事長が定例総会の冒頭挨拶で「全国日本語学校連合会は 2004 年に設立し、お陰様で今年で創立 10 周年を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご支援、ご高配の賜物と深く感謝申し上げます」と、会場に居並ぶ日本語学校関係者にお礼の言葉を述べた。会員数も 110 校に拡大したことが報告された。

続いて 1 号議案の平成 25 年度活動報告と平成 25 年度決算報告が承認された。

◆平成 26 年度活動計画——中央省庁への働きかけ強める

第 2 号議案の平成 26 年度活動計画では、語学留学生の負担軽減や日本語学校の質の向上などを主眼に以下の活動計画が、討議の末に承認された。とくに外国人看護師、介護士の増加など多様化する留学生環境に備えて、従来 of 法務省、文科省のみならず、厚生省、外務省など中央省庁への働きかけを強めたのが今年の活動計画の特徴だ。

- ① 日本語学校の消費税免除についての研究と陳情
- ② 厚生労働省に対し看護、介護に関する諸問題についての研究と陳情
- ③ 留学生保険 全国日本語教育機関共催共同組合への協力及び支援

- ④ 学習奨励金の件数の拡充を文部科学省に要望
- ⑤ 「安全な留学生生活」を PR する海外広報の強化
- ⑥ 日本語学校の質向上に向け関東で3回、関西・九州で年3回、北海道、東北、中部で年1回のJaLSA教育・文化懇話会セミナー開催
- ⑦ 日本語教師の質向上と交流のため日本語教師セミナー開催
- ⑧ 日本語学校が的確な進路指導を行うため、大学及び専門学校との進学フェアの実施 関西・九州地区検討中。東京は年2回、第16回（6月25日に実施）と、第17回を10月に開催予定
- ⑨ 広報活動の一層の充実 イ）ホームページの充実、ロ）正会員、賛助会員のホームページへのリンク、ハ）留学生通信・日本人の文化と精神の研究・記事コラムの充実、ニ）留学生通信第6号発行（実施済）、ホ）「法務省告示校一覧」の6月発行（当総会時に全471校掲載の冊子を配布）、ヘ）新年賀詞交換会を1月に実施予定、ト）JaLSA10周年祝賀会の6月25日開催（実施済）
- ⑩ 文部科学省・法務省（入管行政説明）・文部科学省（留学生政策説明）・外務省（海外広報・政策説明）・経済産業省（留学生人材育成政策の説明）・厚生労働省（看護、介護に関する政策説明）への対策・交流強化
- ⑪ 海外の日本語教育機関・日本語留学院との交流会及び海外募集フェアの開催
- ⑫ その他、ベトナム教育認証制度の充実 引退相撲・国際武道文化セミナー等への後援・協賛など。日本語学校閉鎖事態への対応検討、日本語能力試験の海外・国内受験者の7月、12月試験の早期成績照会の実施。

◆平成26年度運営方針——実りある提言を積極的に行う

また、第3号議案の平成26年度運営方針では、2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害について「その被害は全国の日本語学校にも及び、現在も日本語学校の経営そのものに重大な影響を与え続けております」として、「国や関係する自治体と連携して『日本語学校に学ぶ素晴らしさ』と『日本の安心・安全と、食・自然・高度な産業などの日本の魅力と産業力の高さ』を広める海外キャンペーンを積極的に展開して行く方針」を明らかにした。

また、現在、法務省が行っている審査・証明事業については、「高等教育機関に進学・在籍する外国人留学生の日本語教育に関する検討会議」の構成も含めて、より公平・公正な議論の進め方を求め、「質の高い日本語教育機関の実現のために実りある提言を積極的に行う」方針も示した。

さらに、「ベトナム教育認証制度や日本語能力試験の早期照会制度など、日本語学校業界のための活動を引き続き行っていく」考えを明らかにした。

◆JaLSA 綱領制定で、公正な経営、社会から信頼される教育機関目指す

続いて、第4号議案のJaLSAの倫理規定の見直しが討議され、2011年1月18日に制定された倫理規定を土台に、次回の理事会で論議を重ねることが決まり、校長・教員の欠格事由規程の追加などが論議される模様だ。また、同時に、全国日本語学校連合会全体の質の向上を目指し「JaLSA 綱領」の創設が報告され、原案が提示され、綱領創設が承認された。会場では綱領の字句修正の提案が多数寄せられたために、事務局で理事間の調整を図り、以下のように「全国日本語学校連合会綱領」を定めた。

全国日本語学校連合会 綱領

全国日本語学校連合会

平成26(2014)年6月25日制定

- 一、 JaLSA 加盟の日本語学校は憲法及び立法精神を尊重し公正な経営を通じて社会から信頼される教育機関を目指す
- 一、 JaLSA 加盟の日本語学校は日本語教育の創意工夫及び質の向上に努め留学生には誠意と愛情を持って臨む
- 一、 JaLSA 加盟の日本語学校は留学生の母国から信頼される人材養成に努め母国と日本との懸け橋となれるよう親切丁寧な教育指導を推進する
- 一、 JaLSA 加盟の日本語学校は留学生の人格の陶冶及び健康管理に配慮し日常の生活指導を行う
- 一、 JaLSA 加盟の日本語学校は日本の文化及び習慣習熟の機会を留学生に与え留学の実が広がるように努める
- 一、 JaLSA 加盟の日本語学校は学校経営の工夫と創造に努め長期的で安定的な成長及び地域経済の発展に貢献できるよう努める
- 一、 JaLSA 加盟の日本語学校は安全な教育環境の整備に努め地域との交流を通じて住みよい社会づくりを推進する

◆情報と価値の共有を図るために全国を5ブロック化して運営・把握

第5号議案のJaLSAの運営組織図及び各種委員会設置についての議案は、日本語学校を巡る環境の多用化に対応するために、制度・将来計画・教員の研修計画、入管対策・就職など留学生対応、各担当委員会と担当理事を定めようと計画されたが、限られた事務局の陣容と予算が考慮され、当面は各理事で担当を定めて対応することとした。また組織拡大による情報と価値観の共有を図る為に、全国を①東北・北海道地区、②関東地区（東京を除く）、③東京地区、④近畿・中京地区、⑤九州・四国・中国——の5ブロックに分

けて、ブロック会議を開催することが決まった。

さらに第6号議案の文部科学大臣への嘆願書については、①日本語学校の学生に対する奨学金支援の拡大、②都道府県知事レベルの学校法人の許可基準の統一化、③日本語学校の留学生の住居の提供支援——などについて、要望をまとめる事とした。文書の内容については、荒木理事長への一任が承認された。

なお、第7号議案の新役員選出の件では、理事には、荒木幹光（関東）、泉岡春美（東北・北海道）、対木正文（東北・北海道）、鈴木紳郎（東京）、水田穰作（東京）、本多幸雅（東京）、長岡博司（関東）、栗山久（関東）、林隆保（東京）、坂本順一（近畿・中京）、仲田俊一（九州・四国・中国）、山本由子（近畿・中京）の各氏が再任され、鈴木修一氏は退任した。代わりに若林芳子氏が新しく理事に選出された。カッコ内は担当ブロック。

監査役には、小山透、佐藤厚潮の両氏が再任された他、相談役に、いずれも創立時のメンバーである顧問の浜口猛比古、理事の古関洋の両氏が就任し、従来の鎌田篤氏と併せて3氏となった。

◆第16回進学フェアに大学専門学校等38団体、日本語学校33校が参加

総会が無事終了し、午後2時から同会館2階で第16回JaLSA進学フェアが開催された。JaLSA進学フェアは大学・専門学校の学生募集担当者と日本語学校の進学相談担当者を結ぶ日本で唯一のBtoBの機会、毎回好評を博してきた。

今回も参加校は、大学と専門学校などが38団体、日本語学校は33校となった。参加校が増えて会場が手狭となり、大学、専門学校の参加を断らざるを得ない場面も出た他、当日になって急きょ参加を申し込む日本語学校も出たほどの盛況となった。次回は10月を予定している。

◆盛大に催されたJaLSA創立10周年記念祝賀会

同日、午後7時から、日本語学校関係者多数を招待して、JaLSA創立10周年を記念しての祝賀会が盛大に催された。会場では、高村正彦自民党副総裁からのJaLSAの今日に至るまでの努力を讃えるメッセージが川野邦仁秘書から披露された。また祝賀会には、日頃お世話になっている日本私立学校振興・協立事業団の河田悌一理事長、文部科学省の渡辺正実学生・留学生課長、外務省の浦林紳二大臣官房人物交流室長、公益財団法人・入管協会の佐藤修専務理事ら各省幹部と関係団体幹部らを多数招待した。各氏とも、それぞれが、留学生に日本語教育を施すことの重要性、JaLSAの役割の増大に言及し、一層の活躍を期待する挨拶を行った。

また、浜口相談役は、「上海事件」などの苦しい時期の思い出に言及し、日本語教育振興協会から独立し、JaLSAを結成、日本語学校の改革に乗り

出した当時のエピソードを熱く語って、後輩を叱咤激励する一幕もあり、祝賀会は盛況裏に終わった。